

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第103号(2015.10.1)  
事務局川西地区自主防災会

## 「優先すべき」活動と反省点

かがわ自主ぼう連絡協議会 岩崎正朔

東日本大震災から4年半も過ぎて、多くの人達から風化されつつあり、私達の防災関係者からすると残念なことです。このたび「防災と科学」という冊子を読んでいると、仙台市が2011年3月11日発災してから翌日にかけて「優先すべき」活動と反省点を議論して、作成された内容について紹介することとしたい。

### (1) 情報の収集と共有

- ・情報の空白地域はないか
- ・どのような災害、被害が発生しているのか
- ・要救助者や行方不明者はいないか

### (2) 生命の安全確保にかかる活動

- ・避難の勧めと誘導
- ・地震による重傷者・重症者に対する医療救護
- ・震災関連死（ストレス、運動・水摂取不足、持病の悪化等の防止）
- ・要配慮者への支援と見守り

### (3) 避難者対応活動

- ・避難所の開放、運営
- ・避難者への「水、食料、毛布等」の配布

### (4) その他

- ・遺体の仮収容



## 2. 避難所運営の実態

発災時刻が14時46分、このため、仙台市中心部は帰宅困難者であふれた。このため、住民が避難すべき避難所がいっぱいとなって、地域住民の避難者を受け入れることができない状態となった。後の調査で約10万人強の帰宅困難者が避難所に集まっていた。

次の資料は仙台市内の23校の小学校を調査したもので、日頃からの地域との連携によって、大きく運営主体が違っていたことが推測できる。

又、避難所開設時には、仙台市職員が派遣されることになっていたが、市職員が運営にかかわったのは1校のみである。

更に地区社会福祉協議会7カ所で調査すると、普段から食料などを準備している人は高齢者、2～3日はなんとか自力で考えた人が家でじっとがまんしていた。反面、自らの準備ができていなかった若い人達（40歳未満）が避難者として多数しめていたことが判明。自助意識の不足がここからも読みとれる。

# 東日本大震災時の避難所運営の実態

(仙台防災学習研究所 古橋信彦氏資料)

## <仙台市の実態>

- ・最大避難者数 105,947人 ・最大避難所 288ヶ所
- ・小学校の避難所 23校調査
- ・発災当日の運営
  - 14校・・・学校職員のみ
  - 7校・・・自治会役員+民生委員+学校職員
  - 1校・・・市職員+学校職員
- ・学校の使用場所
  - 体育館のみ・・・9校
  - 体育館と教室・・・9校
  - 教室の2Fと3Fのみ・・・3校
  - 解放不可能・・・2校

## ・年齢別の避難実態

19歳未満 (15～19歳)	25.8%	29歳未満 (20～29歳)	36.5%
39歳未満 (30～39歳)	36.6%	49歳未満 (40～49歳)	28.2%
59歳未満 (50～59歳)	21.8%	69歳未満 (60～69歳)	18.3%
79歳未満 (70～79歳)	15.8%	89歳以上	19.2%

(考察) 普段から食料等を準備している高齢者は、2～3日は何とかなると自宅避難が多く発生。若い人は、自らの備えが不十分であったことと、自助意識が不足していると伺える。

## 3. ライフラインの実体

石巻市や南三陸町と言え、3.11災害で甚大な被害を受けましたが、下表からでも分かるように、ライフラインの中心的存在である「電気」「水道」の全域停電や全域断水においては、沿岸から離れている栗原市の方がダメージがあります。

香川県内においても、内陸的市・町は、この点に注目していただきたい。

備蓄食品や防災用資機材購入の時には、このあたりを注目して整備してほしいものです。

## 東日本大震災時の被害状況 (消防大学校 日野教授資料)

		石巻市	南三陸市	栗原市
死者		2,341人	398人	0
行方不明者		2,698人	824人	0
最大避難所		250ヶ所	54ヶ所	52ヶ所
最大避難者		111,295人	9,753人	2,816人
電気	全域停電	5日間	9日間	8日間
	全域復旧	6月11日	6月11日	12日目
水道	全域断水	10日間	9日間	11日間
	復旧	6月11日時点で一部復旧		5月11日

岩崎会長より寄稿いただきました。

## 「私の人生」

丸亀市連合自治会 会長 岩崎 正朔

私が生まれたのは、終戦間近の昭和19年1月4日である。幼少の頃は体が弱く、10歳くらいまでは小学校を早退することが多かった。

しかし、小学校5年生くらいから急速に体調が回復し、6年生では、クラスを代表する健康児となった。中学生になると、土器川で砂利採取の仕事や、建設工事現場へアルバイトして学費に充てるなどして、家業の援助を行った。

高校進学の際、中学担任から「丸亀高校へも行けるので両親と相談してきなさい」と言われたが、両親の生活ぶりから早く何とか家計を助けたいという気持ちから、坂出工業高校へと進んだ。高校3年間は農業の手伝いと、夏・冬・春の休みはアルバイトして得た収入をすべて母親に渡した。

社会人として初めて、九州の八幡製鉄所へ行ったものの、非常に職場環境が悪く（絶えず人身事故が続いていた）、6ヶ月後に退職した。

その後、電電公社の中途採用試験に臨み、室戸電報電話局に配属になった。今振り返ってみると、現在の防災やボランティア活動は、この室戸時代にかかるものが大きかった。最大風速79.8メートル、1日雨量880mmととてつもない自然の猛威にさらされ、何度か風速40～50メートルの中、室戸岬観測所へ1人で夜中に駆けつける大変な経験をした。

また独身寮の寮長時代は、少しは世の中の為になることをしようと室戸市内の映画館を5日間借りて映画の上映をし、その収入15万円を高知新聞社を通じて山の分校へ図書購入費として寄付した。手作りの前売券を寮生が手分けして売りに歩いたことは今のしっかりと脳裏に焼きついている。

さて電電公社（NTT）時代の思い出に残る仕事は、技術屋としては、昭和55年頃から約5年間、四国の自動車電話（後の携帯電話）の設計責任者として働いたことである。

営業マンとしては、四国第一号の法人営業マンとして、高松空港、香川県庁舎、香川大学、瀬戸大橋架橋博覧会等、数億単位の仕事をさせて頂いた。

個人的には49歳から自治会長を仰せつかり、地域活動に飛び込み、会社とは違った苦しみを体験することになった。

しかし年月が経つと共に、多くの人との出会いで味わいのある日々が送れている。また今日まで元気な源をはぐくんでくれた亡き両親にも報恩の気持ちでいっぱいだ。

これからあと数年は、地域貢献に全力を傾注し、その後はカメラをもって全国を旅したいと思っている。皆様のご健勝を祈念してペンをおきたい。

今月の事務局だよりは、活動予定とお知らせです。

## 1. ふりかえってみましょう

本年度も前半戦が終了しました。ふりかえってみますと、毎月がいそがしく充実した半年間だったと感じております。

<前期の取組み実績>

- ①防災訓練 7件
  - ・自主ぼう・自治会・・・宇多津、志度町南中浜、前田
  - ・教育関係・・・坂工、多度津、前田小、さぬき北小
- ②防災研修 4件（綾川町、十川、北谷団地、高瀬町上麻）
- ③何でも相談コーナー 4件
- ④ヒアリング活動等 6件

## 2. 10月のフォローアップ事業予定

- ・10/7 高松弦打地区
- ・10/10 香川大学と周辺自治会
- ・10/17 高松木太地区
- ・10/18 高松香南地区
- ・10/25 観音寺市柞田地区
- ・10/25 仁尾中学校



## 3. 第20回防災まちづくり大賞に応募

この度、かがわ自主ぼうとして、この4、5年間の取組みをまとめて、第20回防災まちづくり大賞に応募しました。只今過去の実績を資料にまとめるべく奮闘中です。

### 編集後記

今月の防災減災の輪は、岩崎会長の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。